





**高知城大パノラマ**  
高知城展望のベストポジション。  
**見上げれば天守。見下ろせば追手門。**  
天守閣にのぼっている人たちの楽しそうな表情まで見えるようです。



**3つの  
みる・まなぶ**



ただいま準備中!

# みる・まなぶの3階!

城博3階のテーマは《みる・まなぶ》。  
階段で、エレベーターで、たどり着くと突如あらわれる高知城の大パノラマ。  
ほの暗い回廊へと進めば数百年の歴史を秘めた展示品の数々があなたに語りかけます。  
展示を見た後は、兜や陣羽織のレプリカをさわったり、着てみたり。  
みてたのしく、わかったのしい。そんなフロアをただいま準備中です。



藩士の目線で撮影中

## お城をみる・まなぶ

城博3階から眺める高知城は圧巻のひとつ。ひとまず「うわー」「すごい」「きれい」という言葉しかでてこないほどです。しかし、ここは博物館。ただでは帰しませんよ!建物内部も観察できる《1:30模型》。ゲーム感覚で学べる《高知城タンジブルテーブル》。臨場感たっぷり!高知城のすべてがわかるビデオなども、盛りだくさんにご用意しています。高知城見学の予習復習にもぜひ!



## 手乗り高知城

ピサの斜塔に行った人みんなが記念撮影でとるあのポーズ。城博ではぜひこのポーズで記念撮影をお楽しみ下さい。

## 展望・体験ロビー

高知城を見たり、いろんな体験プログラムを楽しんだりすることができます。



## 企画展示室

毎回異なる切り口でせまる展示「企画展」を行う部屋です。

詳しくは  
本誌4号で!

## ほんものをみる・まなぶ

城博では、土佐藩主山内家に伝わった古文書や美術工芸品、書籍など約6万7千点を核に、藩士の家や社寺に伝わったものなど、広く土佐の歴史資料を収蔵しています。「歴史資料」というと、こむずかしい感じがしますが、昔、実際に書かれたり、使われたり、飾られたりしていたモノたちのこと。当時の社会の動きやしくみ、文化やくらしの様子などの情報がつまっています。展示室では、これらを、**見やすく、わかりやすく、美しく**ならべます。本やテレビを通してではなく、「ほんもの」を通して歴史を見、文化を知る。そんな体験を心ゆくまで楽しんでいただきたいと思ひます。



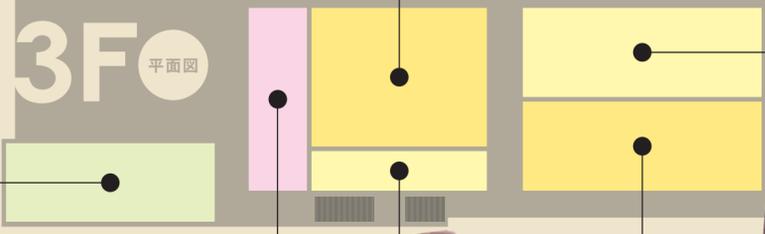
展示資料 点検中



ケースの立てこみが  
始まります!

## デジタルで! レプリカで! みる・まなぶ

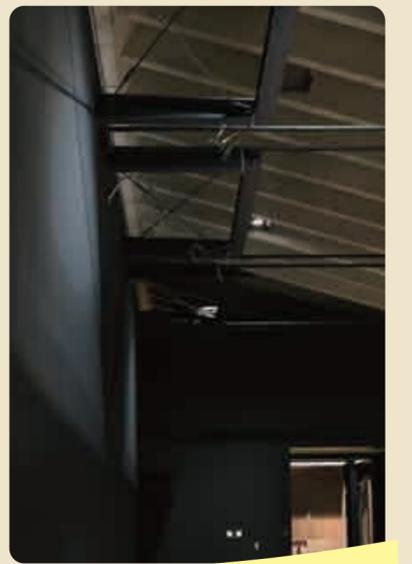
城博のモットーは「ほんものにこだわった展示」とはいえ、ケース越しにはお伝えしきれないことも実はたくさんありまして…。「小さな解説板では語りきれないよ!」「資料の裏側や細かいところも見てもらいたいのだ!!」。そんな学芸員の叫びが、《タブレットコンテンツ》に結実しました。音声ガイド・詳細な解説が、スマートフォンや貸出タブレットでお楽しみいただけます。「兜をかぶった時の重さや視界を味わっていただきたい!」ということで、レプリカ(模造品)の兜がかぶれる《**武将なりきり体験**》などのプログラムも制作中です。また、《土佐史探索室》では、**土佐の歴史や高知城に関するビデオ**をご用意しています。「ほんもの」との相乗効果で、みなさんの経験がより豊かなものになるといいな、と願っています。



## テーマ展示室

(江戸時代の美術と文化)

甲冑や刀剣、能面、茶道具などの大名道具、土佐の学者や文人たちの著作・書画を展示します。



## 背の高〜い高機能ケース

ここでは、高さ4.6メートルのケースが入ります。今まで展示できなかった大きな掛け軸もかけられるようになりました。

## 土佐史探索室

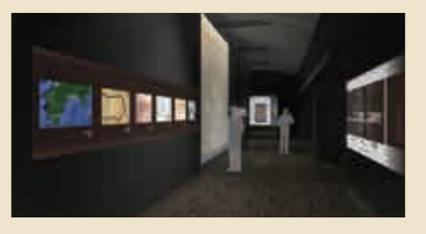
(映像・検索コーナー)

5つの映像(高知城、収蔵資料紹介、土佐の歴史、子供向けガイド、外国語ガイド)を大型スクリーンでご覧いただけます。1人用の端末もありますので、好きなガイドビデオをゆ〜くりと見ることもできます。

## 導入展示室

(土佐の歴史と空間)

展示室の入口。壁いっぱいに古代から現代までの土佐の歴史年表と絵図・地図がひろがります。



## 通史展示室

(江戸時代の土佐と日本)

戦国時代から幕末維新まで、土佐の歴史を館蔵資料を通して紹介。教科書で習ったあんなことやこんなことを、実物で確認できますよ。



## レプリカは職人魂の結晶

城博では2タイプのレプリカを作っています。一つは、みなさんに実際に触ったり、着たりしていただけるレプリカ。本物と形は同じですが、扱いやすいよう、壊れにくいよう、強化プラスチックや手に入りやすい布地などで作ります。写真右の兜耳兜レプリカは、中空になっていますが、かぶったときに重心が安定するよう、制作会社の方にたいへんご苦労をおかけしました。



もう一つは、材質や作り方でがざりなく本物に似せたレプリカ。日本の古文書や美術工芸品は、光や温湿度変化・物理的衝撃に弱いものがほとんどです。展示しなければ、その存在をみなさんに知っていただくことすらできませんが、やはり、展示すれば傷むのです。そこで、展示の回数や期間をできるだけ減らすために、模造品を作り、そちらを展示する場合があります。この陣羽織に使われている布地は、現在もう作っている人がいません。今、羊毛を紡ぐところから、復元を試みていただけることになりました。400年前の織物職人と、現代の織物作家の無言の対話が歴史資料をはさんで交わされています。



## 原作者もびっくり「やまびよん」が!

学芸員自らがデザイン・作画する、日本一エコなミュージアムキャラクター「やまびよん」。(職員が袋詰する)めいぐるみマスコット、(職員が入る)きぐるみ、と堅実に展開してきたやまびよんが、とうとう(プロの手で)アニメ化!館内で上映する子供向け映像でやまびよんが動き、突っ込みます。突っ込まれ役は?来てのお楽しみ!



突っ込まれ役のキャラデザも  
やっぱり学芸員です

## 巨大年表制作者の思い

南国の陽光あふれる展望ロビーから、一転、来館者を歴史の深淵へと誘い込む導入展示室。壁には縦1.5メートル、横14.6メートルの巨大な歴史年表が造り込まれます。こんなに大きいのに、担当者が入りたい項目が入りきらず思い込んでいました。運びに選ばれた事件や出来事の数々。高知県の歴史ダイジェスト決定版!ぜひ確かめに来て下さい。



## 展示環境調査

本誌1号では資料をしまう収蔵庫の様子をお伝えしました。資料を展示する展示室、ガラスケースの中の温湿度や空気環境の調査も気が抜けません。これから、開館まで何度も調査を重ね、モニタリングを行っていきます。

ケースの中と外で空気の出入りがないようにすきまなく密閉した「エアタイトケース」です。すきまがあると、ケース外の変化の影響を受けやすく、資料を傷める原因になります。さらに、ケースの中では加湿剤を通して空気を循環させ、湿度を安定させています。



巨大ガラスなのに開け閉めは軽く、びしりと取ります。展示替えの時の学芸員の作業にまで配慮した親切設計。

## 城博を支えてくれる、魅せるプロがいます。 株式会社 丹青社

西山 健一 さん

歴史資料だけでなく美術資料も所蔵しているのが、当館の特徴と捉えています。よって、わかりやすく見せるだけでなく、美しさをみせることの両立を目指し、展示ケースや、照明、解説等を計画いたしました。高知観光の中心地にあるからこそ、多くの観光客の方に立ち寄っていただける施設になることを望んでいます。



入江 泰照 さん

単に展示資料をご覧いただく施設ではなく、模型・映像などを使用し、楽しく学べる施設づくりを目指しております。また展示空間も、皆さまが気持ちよく過ごせるよう、什器素材や照明計画、解説パネルの文字の大きさなどにもこだわっています。県外や海外の方々にも足を運んでもらいたいですね。

